

大学におけるキャリア教育

— 就職活動の実態から考える —

松井賢二・近藤フヂエ・山岸雅夫
五十嵐久人・高橋桂子・森下修次

キーワード：キャリア教育，就職活動，大学

問題と目的

最近の大学生を取り巻く進路や就労の状況をみると、第1に、大学卒業後、就職も進学もしないという者、すなわち「無業者」の比率が20.0%、という実態がある（文部科学省・平成16年度学校基本調査速報）。つまり、大学卒業生の5人に1人は「就職も進学もしない」ことが明らかな者ということである。この比率は近年増加傾向にある。確かに超氷河期といわれる新卒者の厳しい就職状況を反映している部分もあるが、しかし、その理由だけではないと考えられる。

第2に、たとえ就職したとしても、大学卒業生のうち、就職後3年以内に離職する者が36.5%に達したという実態がある（厚生労働省，2004）。これは平成12年3月卒業生の結果である。平成7年3月卒業生において3年以内の離職率が3割を突破して以来最も高い比率を記録した。ちなみに平成12年3月の高校卒業生と中学校卒業生についてその離職率をみると、前者では50.3%、後者では73.0%となっている。これがいわゆる「7・5・3現象」という状況である。

このような大学生の実態を改善するためには、小学校や中学校、高等学校だけではなく、大学においてもキャリア教育を実践していくことが必要である

と考える。しかしながら、わが国におけるキャリア教育に関する最近の研究として、仙崎武ら（1998）や国立教育政策研究所（2002）、文部科学省（2004）などが挙げられるが、いずれの研究も対象が小学校から高等学校段階までであり、大学におけるキャリア教育については全く言及していない。

そこで、本稿では、大学生の就職活動の実態を把握することによって、大学におけるキャリア教育推進のための留意点を明らかにしたい。

方 法

大学生の就職活動等の実態を把握するために、以下のような調査を行った。

1. 調査対象・内容・方法・時期

調査対象者は、新潟大学教育人間科学部（または大学院教育学研究科）を2001年度（2002年3月）、または2002年度（2003年3月）に卒業した学部生、大学院生、別科生、ならびに、2003年度（2004年3月）に卒業見込みの学部4年生と別科生である。

調査の内容は、主として次の4つである。①就職活動の状況（活動の量と開始時期）、②就職活動に関わる大学からの援助（現状、必要性、重要性）、③大学生活で熱心に取り組んだ事柄、④就職活動に力を注いだ割合、である。

調査方法については、まず、卒業生に対しては、郵送による質問紙調査法である。次に、在校生に対

しては、各指導教官を通して調査票を配布し、調査を依頼した。そして、学生は記入後その調査票を自主的に直接所定の回収箱に投函する、という方法をとった。

調査の時期は、2003年12月下旬から2004年1月下旬までの約1ヶ月間である。

2. 調査票の回収状況と無効回答

上記の方法により、配布した調査票は全部で1,379部、回収された調査票は全部で462部であった。したがって、調査票の回収率は、全体で33.5%であった。

本調査では、就職活動の状況等が「卒業年度によって異なるかどうか」を明らかにすることも目的の一つであるため、「卒業年度」が不明の者(11名)を無効回答とした。したがって、最終的に分析の対象となった者(有効回答者)は、451名である。

3. 分析対象者(有効回答者)の概要

卒業年度別の分析対象者は、表1のとおりである。

卒業年度別にみると2002年度卒業生がやや少ないものの、ほぼ各年度同じくらいの割合である。

次に、分析対象者の属性をみてみると、まず表2から、出身課程については、「学校教育課程」が「2003年度卒業生」においてはやや少なくなっているが、全体では約半数を占めていること、そして、表3から、性別にみると、約4人のうち3人が女性であることがわかる。ただし、「2003年度卒業生」においては、女性の占める比率がやや高くなっている。

表1 卒業年度別分析対象者

	度数	%
1. 2001年度卒業生	159	35.3
2. 2002年度卒業生	135	29.9
3. 2003年度卒業生	157	34.8
合計	451	100.0

表2 卒業年度と出身課程

		出身課程						合計
		学校教育課程	学習社会ネットワーク課程	生活環境科学課程	健康スポーツ科学課程	芸術環境創造課程	その他	
2001年度卒業生	度数	82	24	17	1	24	10	158
	%	51.9	15.2	10.8	0.6	15.2	6.3	100.0
2002年度卒業生	度数	68	18	11	9	14	15	135
	%	50.4	13.3	8.1	6.7	10.4	11.1	100.0
2003年度卒業生	度数	67	11	14	19	18	27	156
	%	42.9	7.1	9.0	12.2	11.5	17.3	100.0
合計	度数	217	53	42	29	56	52	449
	%	48.3	11.8	9.4	6.5	12.5	11.6	100.0

表3 卒業年度と性別

		男性	女性	合計
		2001年度卒業生	度数	37
	%	23.9	76.1	100.0
2002年度卒業生	度数	38	94	132
	%	28.8	71.2	100.0
2003年度卒業生	度数	30	122	152
	%	19.7	80.3	100.0
合計	度数	105	334	439
	%	23.9	76.1	100.0

結 果

就職活動の状況を具体的かつ量的に把握するため、就職活動を振り返って、以下の11項目について、それぞれ該当する数字（件数や人数）を各自記入するという方法をとった。なお、「企業等」には「官公庁」も含める旨、調査票に記しておいた。

1. 就職活動の状況

(1) 就職活動の具体的状況（量的把握）

表4 大学時代の就職活動の状況

		<i>N</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>	最小値	最大値
1 大学の就職部や事務にある書類で調べた企業等の数（件数）	2001年度卒業生	154	2.84	7.64	0	50
	2002年度卒業生	128	3.31	12.58	0	100
	2003年度卒業生	143	0.85	3.66	0	30
	合 計	425	2.31	8.61	0	100
2 インターネットで調べた企業等の数（件数）	2001年度卒業生	151	17.33	38.61	0	300
	2002年度卒業生	126	13.04	26.88	0	200
	2003年度卒業生	145	22.90	58.90	0	450
	合 計	422	17.96	44.14	0	450
3 葉書で資料を請求した数（件数）	2001年度卒業生	153	1.95	5.70	0	50
	2002年度卒業生	129	1.50	3.53	0	25
	2003年度卒業生	148	0.54	1.58	0	10
	合 計	430	1.33	4.06	0	50
4 インターネットで資料を請求した数（件数）	2001年度卒業生	155	4.33	10.84	0	50
	2002年度卒業生	128	2.01	4.86	0	30
	2003年度卒業生	147	4.00	9.74	0	50
	合 計	430	3.53	9.08	0	50
5 企業等での会社説明会やセミナーなどへの出席数（件数）	2001年度卒業生	156	3.64	7.18	0	30
	2002年度卒業生	129	2.86	5.75	0	40
	2003年度卒業生	148	3.37	6.78	0	40
	合 計	433	3.32	6.64	0	40
6 企業等のOB・OGへ連絡した数（件数）	2001年度卒業生	156	0.19	0.92	0	10
	2002年度卒業生	130	0.13	0.42	0	2
	2003年度卒業生	147	0.15	0.55	0	4
	合 計	433	0.16	0.68	0	10
7 就職活動のために会ったOB・OGの人数（人）	2001年度卒業生	155	0.27	1.52	0	15
	2002年度卒業生	129	0.30	1.14	0	10
	2003年度卒業生	147	0.44	1.90	0	20
	合 計	431	0.34	1.56	0	20
8 企業等を訪問した数（件数）	2001年度卒業生	156	1.76	5.07	0	30
	2002年度卒業生	130	1.77	4.50	0	30
	2003年度卒業生	146	0.94	2.62	0	16
	合 計	432	1.48	4.21	0	30
9 就職試験を受けた企業等の数（件数）	2001年度卒業生	156	3.92	7.02	0	50
	2002年度卒業生	131	3.36	5.34	0	40
	2003年度卒業生	152	3.46	5.58	0	30
	合 計	439	3.59	6.06	0	50
10 内（々）定をもらった企業等の数（件数）	2001年度卒業生	156	0.85	1.02	0	4
	2002年度卒業生	132	0.86	1.09	0	5
	2003年度卒業生	150	0.59	0.80	0	4
	合 計	438	0.76	0.98	0	5
11 断られた（不合格の）企業等の数（件数）	2001年度卒業生	156	3.19	6.91	0	50
	2002年度卒業生	132	2.30	4.56	0	37
	2003年度卒業生	148	2.54	4.28	0	20
	合 計	436	2.70	5.44	0	50

ここでは、それぞれ卒業年度別に平均値等の記述統計量を求めた結果を表4に示し、特徴的な点について簡潔に記す。

- ① 大学の就職部や事務にある書類で調べた企業等の数
平均値 (M) をみると、「2003年度卒業生」で極端に減少し、平均一人1件に満たない。
- ② インターネットで調べた企業等の数
「2002年度卒業生」よりも「2003年度卒業生」の方が平均で約10件も増加し、約23件となっている。
- ③ 葉書で資料請求した数
「2003年度卒業生」では他年度に比較して、平均0.5件とかなり減少してきている。
- ④ インターネットで資料請求した数
「2002年度卒業生」では平均約2件であるが、「2001年度卒業生」と「2003年度卒業生」では平均4件で、「2002年度卒業生」の約2倍となっている。
- ⑤ 企業等での会社説明会やセミナーなどへの出席数
「2002年度卒業生」では平均3件を下回っているが、他の年度では平均が3件強である。
- ⑥ 企業等のOB・OGへ連絡した数
全体の平均がわずか0.16件と、非常に少ないことがわかる。
- ⑦ 就職活動のために会ったOB・OGの人数
全体平均が0.34人であり、かなり少なくなっている。
- ⑧ 企業等を訪問した数
「2001年度卒業生」や「2002年度卒業生」では2件弱であるが、「2003年度卒業生」では1件弱と、減少している。これは、調査時期が卒業までに2ヶ月残していることと関係しているのではないかと考えられる。
- ⑨ 就職試験を受けた企業等の数
毎年約3.5件程度とほぼ同数である。
- ⑩ 内(々)定をもらった企業等の数
すべての年度で1件未満である。特に「2003年度卒業生」については、約0.6件と少なくなっているが、これも卒業までに2ヶ月残している時期での調査、ということが関係していると思われる。
- ⑪ 断られた(不合格の)企業等の数
全体で平均3件弱という結果である。

(2) 就職活動の開始時期

就職活動に関連する取り組みの開始時期を把握するため、以下の11項目それぞれについて、「何年生の何月から開始したか」を尋ねた。

ここでは、それぞれ卒業年月別に、開始時期を求めた結果を表5から表15に示し、それぞれ特徴的な点について簡潔に記す。

- ① 大学の就職部や事務にある書類で企業を調べ始めた時期
全体的には3年生の10月から増え始め12月に1度目のピークを迎え、その後4年生の4月に2度目のピークを迎えている。卒業年度別に見ると、「2003年度卒業生」は他年度卒業生よりも比較的スタートが早くなっていることがわかる。
- ② インターネットで企業を調べ始めた時期
ここでも全体としては、3年生の10月にはじめて10%を超えてから、3年生の2月までずっと1割以上となっている。卒業年度別に見ると、多少の違いはあるが、「2003年度卒業生」においては、ピークが3つある。すなわち、3年生の10月と3年生の1月、そして4年生の4月である。開始時期の早い学生と遅い学生では、約半年の差がある。
- ③ 葉書で資料を請求し始めた時期
これは取り組んだ学生の数は少ないが、ピークは3年生の12月から2月までの3ヶ月間となっている。
- ④ インターネットで資料を請求し始めた時期
早い学生は3年生の10月から取り組んでいる。ピークは3年生の1月である。
- ⑤ 企業等での会社説明会やセミナーなどへ出席し始めた時期
全体としてのピークは3年生の3月であるが、3年生の1月から4年生の4月までの4ヶ月間は、ずっと1割を超えている。卒業年度別にそのピークを比較すると、「2001年度卒業生」と「2002年度卒業生」では、ピークが3年生の3月であったが、「2003年度卒業生」では3年生の2月となっており、1ヶ月早まっている。
- ⑥ 企業等のOB・OGへ連絡し始めた時期
全体的に取り組んでいる学生が極端に少ないが、ピークは4年生の4月である。
- ⑦ 就職活動のためにOB・OGに会い始めた時期
これについても取り組んでいる学生が少ない。全体のピークは4年生の4月であるが、3年生の12月にもやや多くなっている。

表5 大学の就職部や事務にある書類で企業を調べ始めた時期

	開 始												時 期												合 計
	1年生 7月	2年生 4月	2年生 12月	3年生 4月	3年生 6月	3年生 7月	3年生 9月	3年生 10月	3年生 11月	3年生 12月	3年生 1月	3年生 2月	3年生 3月	3年生 4月	3年生 5月	4年生 6月	4年生 8月	4年生 9月	4年生 10月	4年生 12月	4年生 1月				
2001年度 卒業生	人	1	1	1				3	4	6	4	6	2	5	1							34			
	%	2.9	2.9				8.8	11.8	17.6	11.8	17.6	17.6	5.9	14.7	2.9							100.0			
2002年度 卒業生	人	1			1		1	2	3	3	2	2	3	4			1		1			26			
	%	3.8			3.8		3.8	7.7	11.5	11.5	7.7	7.7	11.5	15.4			3.8		3.8			100.0			
2003年度 卒業生	人				1			3	2	4	1	2		4		1		1	1	1		21			
	%				4.8		14.3	9.5	19.0	4.8	4.8	9.5		19.0		4.8		4.8	4.8	4.8		100.0			
合 計	人	1	1	1	2	1	1	8	9	13	7	10	5	13	1	1	1	1	2	1	1	81			
	%	1.2	1.2	1.2	2.5	1.2	1.2	9.9	11.1	16.0	8.6	12.3	6.2	16.0	1.2	1.2	1.2	1.2	2.5	1.2	1.2	100.0			

(注) 空欄は0.

表6 インターネットで企業を調べ始めた時期

	開 始												時 期												合 計
	2年生 10月	2年生 1月	3年生 4月	3年生 6月	3年生 7月	3年生 8月	3年生 9月	3年生 10月	3年生 11月	3年生 12月	3年生 1月	3年生 2月	3年生 3月	3年生 4月	4年生 5月	4年生 6月	4年生 7月	4年生 8月	4年生 9月	4年生 10月	4年生 12月				
2001年度 卒業生	人	1					2	7	7	10	8	8	2	5	3							55			
	%	1.8					3.6	12.7	12.7	18.2	14.5	14.5	3.6	9.1	5.5							100.0			
2002年度 卒業生	人		1	2	1	1		4	8	7	8	8	1	4	2	1	2	1		1		55			
	%		1.8	3.6	1.8	1.8		7.3	14.5	12.7	14.5	14.5	1.8	7.3	3.6	1.8	3.6	1.8		1.8		100.0			
2003年度 卒業生	人			1	1		1	11	7	6	14	8	3	10	1		2	1	1		1	69			
	%			1.4	1.4		1.4	15.9	10.1	8.7	20.3	11.6	4.3	14.5	1.4		2.9	1.4	1.4		1.4	100.0			
合 計	人	1	1	3	2	1	3	22	22	23	30	24	6	19	6	1	4	2	1	1	2	179			
	%	0.6	0.6	1.7	1.1	0.6	1.7	12.3	12.3	12.8	16.8	13.4	3.4	10.6	3.4	0.6	2.2	1.1	0.6	0.6	1.1	100.0			

(注) 空欄は0.

表7 葉書で資料を請求し始めた時期

	開 始 時 期												合 計		
	3年生 5月	3年生 10月	3年生 11月	3年生 12月	3年生 1月	3年生 2月	3年生 3月	4年生 4月	4年生 5月	4年生 6月	4年生 7月	4年生 8月		4年生 10月	4年生 1月
2001年度 卒業生 人	1	5		6	7	5	2	4	3	2		1			36
卒業生 %	2.8	13.9		16.7	19.4	13.9	5.6	11.1	8.3	5.6		2.8			100.0
2002年度 卒業生 人		1	1	3	3	5	1	4	3	1		1		1	26
卒業生 %		3.8	3.8	11.5	11.5	19.2	3.8	15.4	11.5	3.8		3.8		3.8	100.0
2003年度 3月卒業 人				2	6	1		4	3	1					17
卒業生 %				11.8	35.3	5.9		23.5	17.6	5.9					100.0
合計 人	1	6	1	11	16	11	3	12	9	4		1		1	79
合計 %	1.3	7.6	1.3	13.9	20.3	13.9	3.8	15.2	11.4	5.1		1.3		1.3	100.0

(注) 空欄は0.

表8 インターネットで資料を請求し始めた時期

	開 始 時 期												合 計		
	3年生 10月	3年生 11月	3年生 12月	3年生 1月	3年生 2月	3年生 3月	4年生 4月	4年生 5月	4年生 6月	4年生 7月	4年生 1月	4年生 1月			
2001年度 卒業生 人	5		2	10	7	8	4	3				1			40
卒業生 %	12.5		5.0	25.0	17.5	20.0	10.0	7.5				2.5			100.0
2002年度 卒業生 人	3		3	3	6	6	2	4				1		1	29
卒業生 %	10.3		10.3	10.3	20.7	20.7	6.9	13.8				3.4		3.4	100.0
2003年度 卒業生 人	4		5	5	11	7	3	4				2			44
卒業生 %	9.1		11.4	11.4	25.0	15.9	6.8	9.1				4.5			100.0
合計 人	12		10	18	24	21	9	11				2		1	113
合計 %	10.6		8.8	15.9	21.2	18.6	8.0	9.7				1.8		0.9	100.0

(注) 空欄は0.

表9 企業等での会社説明会やセミナーなどへ出席し始めた時期

	開 始												時 期												合 計
	3年生 4月	3年生 9月	3年生 10月	3年生 11月	3年生 12月	3年生 1月	3年生 2月	3年生 3月	3年生 4月	4年生 4月	4年生 5月	4年生 6月	4年生 7月	4年生 8月	4年生 9月	4年生 10月	4年生 11月	4年生 1月							
2001年度 卒業生 人			2	1	1	8	10	12	11	4	1							1	50						
卒業生 %			4.0	2.0	2.0	16.0	20.0	24.0	22.0	8.0	2.0							2.0	100.0						
2002年度 卒業生 人	1	2.4	3	2	4.9	4.9	7.3	24.4	14.6	2.4	1			3		1	1	2	41						
卒業生 %			7.3	4.9	4.9	14.6	7.3	24.4	14.6	2.4	1			7.3		2.4	2.4	4.9	100.0						
2003年度 卒業生 人			1	1	3	6	15	10	8	1	1	1	1	4	1				53						
卒業生 %			1.9	1.9	5.7	11.3	28.3	18.9	15.1	1.9	1.9	1.9	1.9	7.5	1.9				100.0						
合 計 人	1	1	6	3	6	20	28	32	25	6	2	1	1	7	1	1	1	3	144						
合 計 %	0.7	0.7	4.2	2.1	4.2	13.9	19.4	22.2	17.4	4.2	1.4	0.7	0.7	4.9	0.7	0.7	0.7	2.1	100.0						

(注) 空欄は0.

表10 企業等のOB・OGへ連絡し始めた時期

	開 始												時 期												合 計
	1年生 10月	3年生 12月	3年生 1月	3年生 11月	3年生 2月	3年生 3月	4年生 4月	4年生 5月	4年生 6月	4年生 7月	4年生 8月	4年生 11月	4年生 1月	4年生 1月	4年生 11月	4年生 1月	4年生 1月								
2001年度 卒業生 人		1			1	1	2	1				1	1					9							
卒業生 %		11.1			11.1	11.1	22.2	11.1				11.1	11.1					100.0							
2002年度 卒業生 人	1				1		2	2				1	2					10							
卒業生 %	10.0				10.0		20.0	20.0				10.0	20.0					100.0							
2003年度 卒業生 人		2	1	1	1	1	1	2	2	2	1							9							
卒業生 %		22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1							100.0							
合 計 人	1	3	1	3	2	5	5	3	2	2	2	2	3	1	3	1	1	28							
合 計 %	3.6	10.7	3.6	10.7	7.1	17.9	10.7	7.1	7.1	7.1	7.1	10.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	100.0							

(注) 空欄は0.

表11 就職活動のためにOB・OGに会い始めた時期

	開 始												時 期					合 計
	1年生 7月	3年生 9月	3年生 10月	3年生 11月	3年生 12月	3年生 1月	3年生 2月	3年生 3月	3年生 3月	4年生 4月	4年生 5月	4年生 6月	4年生 7月	4年生 8月	4年生 9月	4年生 11月	4年生 1月	
2001年度 卒業生	人		1			2			1	12.5			1			1	1	8
	%			12.5		25.0			12.5	12.5			12.5		12.5	12.5	12.5	100.0
2002年度 卒業生	人	1			1				1			1		1				9
	%	11.1			11.1				11.1	22.2		11.1		11.1				100.0
2003年度 卒業生	人		1	2		1	1	2	1	3	1	1	1		1			15
	%		6.7	13.3		6.7	6.7	13.3	6.7	20.0	6.7	6.7	6.7		6.7			100.0
合 計	人	1	1	3	1	4	2	3	2	6	2	2	1	1	1	1	1	32
	%	3.1	3.1	9.4	3.1	12.5	6.3	9.4	6.3	18.8	6.3	6.3	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	100.0

(注) 空欄は0.

表12 企業等を訪問し始めた時期

	開 始												時 期												合 計
	1年生 7月	2年生 3月	3年生 4月	3年生 8月	3年生 10月	3年生 11月	3年生 12月	3年生 1月	3年生 2月	3年生 3月	3年生 3月	4年生 4月	4年生 5月	4年生 6月	4年生 7月	4年生 8月	4年生 9月	4年生 10月	4年生 11月	4年生 12月	4年生 1月				
2001年度 卒業生	人		1					2	2	4	7	3	3			1					1	1	27		
	%		3.7					7.4	7.4	14.8	25.9	11.1	11.1		3.7					3.7	3.7	3.7	100.0		
2002年度 卒業生	人	1		1				3	4	4	4	3	1		1		2	1				3	29		
	%	3.4		3.4				10.3	13.8	13.8	13.8	10.3	3.4		3.4		6.9	3.4				10.3	100.0		
2003年度 卒業生	人				1			1	5	6	4	2	1	2	1	1	1		1				25		
	%				4.0			4.0	20.0	24.0	16.0	8.0	4.0	8.0	4.0	4.0	4.0		4.0				100.0		
合 計	人	1	1	1	1	2	2	6	11	14	15	8	5	2	3	3	3	1	1	1	1	4	81		
	%	1.2	1.2	1.2	1.2	2.5	2.5	7.4	13.6	17.3	18.5	9.9	6.2	2.5	3.7	3.7	3.7	1.2	1.2	1.2	1.2	4.9	100.0		

(注) 空欄は0.

表13 就職試験を受け始めた時期

	開 始												時 期												合 計
	3年生 4月	3年生 9月	3年生 11月	3年生 12月	3年生 1月	3年生 2月	3年生 3月	3年生 3月	4年生 4月	4年生 5月	4年生 6月	4年生 7月	4年生 8月	4年生 9月	4年生 10月	4年生 12月	4年生 1月								
2001年度 卒業生			1	3	3	7	9	12	6	7	12	1	1	1	1	1	1	64							
			1.6	4.7	4.7	10.9	14.1	18.8	9.4	10.9	18.5	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	100.0								
2002年度 卒業生	1	1			5	4	8	2	8	8	10	2	2	3	1	1	56								
	1.8	1.8			8.9	7.1	14.3	3.6	14.0	14.0	17.9	3.6	5.4	5.4	1.8	1.8	100.0								
2003年度 卒業生				1	3	8	14	8	4	9	11	2					60								
				1.7	5.0	13.3	23.3	13.3	6.7	15.0	18.3	3.3					100.0								
合 計	1	1	1	4	11	19	31	22	18	24	33	5	3	3	2	2	180								
	0.6	0.6	0.6	2.2	6.1	10.6	17.2	12.2	10.0	13.3	18.3	2.8	1.7	1.1	1.1	1.7	100.0								

(注) 空欄は0.

表14 内(々)定をもらい始めた時期

	開 始												時 期												合 計
	3年生 5月	3年生 6月	3年生 11月	3年生 2月	3年生 3月	3年生 3月	4年生 4月	4年生 5月	4年生 6月	4年生 7月	4年生 8月	4年生 9月	4年生 10月	4年生 10月	4年生 11月	4年生 12月	4年生 1月								
2001年度 卒業生			1	1	1	1	5	8	11	6	5	2	13	2	2	1	1	58							
		1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	8.6	13.8	19.0	10.3	8.6	3.4	22.4	3.4	1.7	1.7	100.0								
2002年度 卒業生	4				2	2	8	7	3	3	2	2	2	2	2	6	40								
	10.0				5.0	5.0	20.0	17.5	7.5	7.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	15.0	100.0								
2003年度 卒業生	1						5	5	6	8	5	4	3	3	3	3	44								
	2.3						11.4	11.4	13.6	18.2	11.4	9.1	6.8	6.8	6.8	2.3	100.0								
合 計	5	1	1	1	3	3	12	21	24	17	12	8	18	7	10	2	142								
	3.5	0.7	0.7	0.7	2.1	2.1	8.5	14.8	16.9	12.0	8.5	5.6	12.7	4.9	7.0	1.4	100.0								

(注) 空欄は0.

表15 企業等から断られ（不合格になり）始めた時期

	開 始 時 期												合 計					
	3年生 4月	3年生 5月	3年生 11月	3年生 12月	3年生 1月	3年生 2月	3年生 3月	4年生 4月	4年生 5月	4年生 6月	4年生 7月	4年生 8月		4年生 9月	4年生 10月	4年生 11月	4年生 12月	4年生 1月
2001年度 卒業生	人 1		1	1	2	1	8	12	7	7	6	4		4		1		55
	% 1.8		1.8	1.8	3.6	1.8	14.5	21.8	12.7	12.7	10.9	7.3		7.3		1.8		100.0
2002年度 卒業生	人 1	1			1	2	2	10	5		5	6	2	2	2	1	1	41
	% 2.4	2.4			2.4	4.9	4.9	24.4	12.2		12.2	14.6	4.9	4.9	4.9	2.4	2.4	100.0
2003年度 卒業生	人 2	1			3	2	7	13	5	5	6	3		5				47
	% 2.1	2.1			6.4	4.3	14.9	27.7	10.6	12.8	6.4	6.4		10.6				100.0
合 計	人 1.4	2	1	1	6	5	17	35	14	12	17	13	2	11	2	2	1	143
	% 1.4	1.4	0.7	0.7	4.2	3.5	11.9	24.5	9.8	8.4	11.9	9.1	1.4	7.7	1.4	1.4	0.7	100.0

(注) 空欄は0.

⑧ 企業等を訪問し始めた時期

全体のピークは4年生の4月であるが、3年生の2月から1割を超え、翌3月にはピークとほぼ同じくらい高い比率である。卒業年度別にみると、「2001年度卒業生」は、4年生の4月がピークであったのが、「2003年度卒業生」においては、少し早まり3年生の3月にピークを迎えている。さらには3年生の2月にも2割の学生が開始している。

⑨ 就職試験を受け始めた時期

全体的に見ると、ピークは2つの時期にまたがっている。1つは3年生の3月、もう1つは4年生の7月である。前者は民間企業の就職試験、後者は教員採用等の公務員試験と思われる。

⑩ 内(々)定をもらい始めた時期

全体では、4年生の6月がピークである。4年生の7月までに半数以上の学生が内(々)定をもらっている。

⑪ 企業等から断られ(不合格になり)始めた時期

全体のピークは4年生の4月である。その前の3年生の3月にも1割を超す学生が不合格となっている。なお、4年生の7月にも1割を超えている。やはり、前者は民間企業の就職試験等の結果、後者は公務員試験の結果と思われる。

(3) 就職活動における不安の程度

ここでは、次の5項目について、就職活動中どの程度不安を感じたかを尋ねた。その項目とは、「どのような職業に向いているのか分からないので、不安を感じた」(「自己理解不足」)、「職業選択や就職に関する情報が足りないので、不安を感じた」(「職業情報不足」)、「実際に働いた経験があまりないので、働くこと自体に不安を感じた」(「労働体験不足」)、「就職や職業選択のことについて、真剣に相談できる人や機会がなかったので、不安を感じた」(「相談の機会不足」)、および「どのようにして職業を決めればよいのか分からないので、不安だった」(「職業決定方法の不明確」)である。

まず各項目について卒業年度別のクロス表を作成し、 χ^2 検定を行った結果、5%の有意水準で差が認められたのは、「労働体験不足」だけであった(表16参照)。その表をみると、「とても感じた」比率が、「2001年度卒業生」では10.7%であったのが、「2002年度卒業生」23.7%、「2003年度卒業生」22.4%、と倍増している。つまり、ここ2年度間では5人に1人以上がこの種の不安を強く感じていると言

える。

次に、全体の回答が、どのような分布になっているかをみるために、項目ごとに集計した結果をグラフにまとめた。それが図1である。それをみると、「とても感じた」と「やや感じた」を合計した割合が比較的高いのは、つまり、比較的不安の程度が高いのは、「どのような職業に向いているのか分からないので、不安を感じた」と「職業選択や就職に関する情報が足りないので、不安を感じた」という項目である。つまり、「自己理解不足」と「職業情報不足」という就職活動の基本に関わる不安が高いことがわかる。

2. 就職活動に関わる大学からの援助

ここでは、就職活動に関わって、「どの程度大学から援助を受けたか」、また就職活動中、「援助をどの程度必要だと感じたか」について尋ねた。さらに、就職活動に関わる大学からの援助(11項目)について、その重要なものから順に3項目記入させた。

その結果を図2～図4に示す。

(1) 現 状

援助を受けた割合(「十分受けた」割合と「少しは受けた」割合の合計)が5割を超す項目は、「就職活動の進め方に関する指導」、「職業全般に関する情報提供」、「就職試験に関する指導や情報提供」の3項目で、すべて5割強である。

一方、その援助を「全く受けなかった」割合が高いのは、「就職後の労働条件に関する情報提供」や「大学(指導教員)からの推薦(書)」、「職業適性(自分がどのような仕事に向いているか)に関する検査・指導」で、いずれも7割前後である。

(2) 必要性

まず全体として、「必要だと感じた割合」(「かなり必要だと感じた」割合と「少しは必要だと感じた」割合)をみると、11項目中10項目が8割を超えている。つまり、ほとんどの学生はこれらの援助について必要性を感じていることになる。その中でも、「かなり必要だと感じた」割合が高いのは、「就職試験に関する指導や情報提供」と「就職活動の進め方に関する指導」、「職場見学や職場実習の実施」であり、いずれも45%を越えている。また、これらの割合に「少しは必要だと感じた」割合をプラスすると(つまり、「必要だと感じた」割合をみると)、9割を超えていたのは2項目あり、「就職活動の進め方

表16 就職活動における不安の程度

項目：「実際に働いた経験があまりないので、働くこと自体に不安を感じた」

		全く 感じなかった	あまり 感じなかった	どちらとも いえない	やや感じた	とても感じた	合 計
2001年度 卒業生	度数	39	46	18	39	17	159
	%	24.5	28.9	11.3	24.5	10.7	100.0
2002年度 卒業生	度数	24	36	8	35	32	135
	%	17.8	26.7	5.9	25.9	23.7	100.0
2003年度 卒業生	度数	32	34	20	32	34	152
	%	21.1	22.4	13.2	21.1	22.4	100.0
合 計	度数	95	116	46	106	83	446
	%	21.3	26.0	10.3	23.8	18.6	100.0

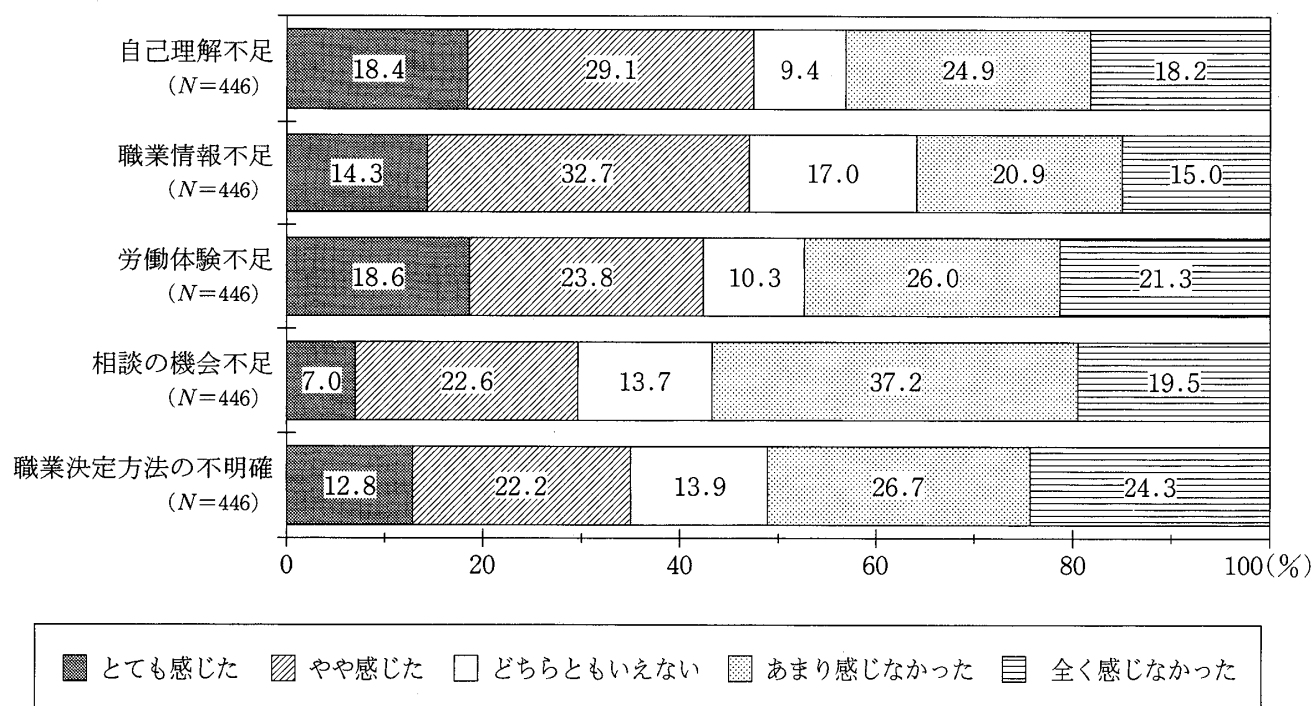
(注) $\chi^2=15.92$, $df=8$, $p=.043$.

図1 就職活動における不安

に関する指導」と「就職試験に関する指導や情報提供」である。

(3) 重要性

まず「最も重要」な項目として選択された結果についてみてみる。割合が1割以上のものについて高い順にあげると、「就職活動の進め方に関する指導」、「就職試験に関する指導や情報提供」、「職場見学や職場実習の実施」、「職業適性（自分がどのような仕

事に向いているか）に関する検査・指導」、および「就職全般に関する相談（カウンセリング）」である。

2番目、3番目に重要な項目として選択された結果も、上述の結果と比較的類似しているが、1つだけ注目したいのは、3番目に選択した項目の中で1割を超えている項目に、「OB・OGに関する情報提供」があがってきていることである。

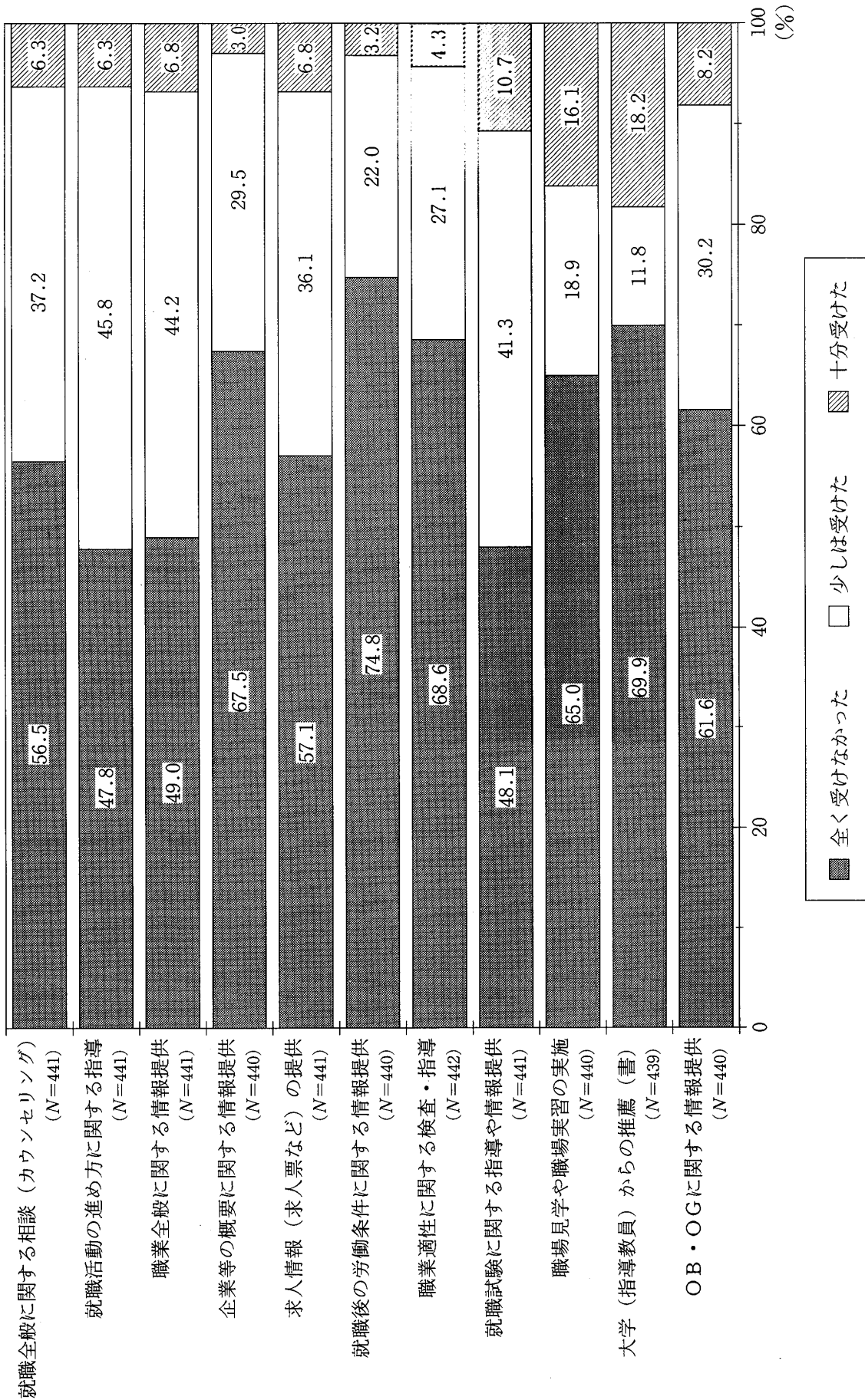


図2 就職活動に関わる大学からの援助 (現状)

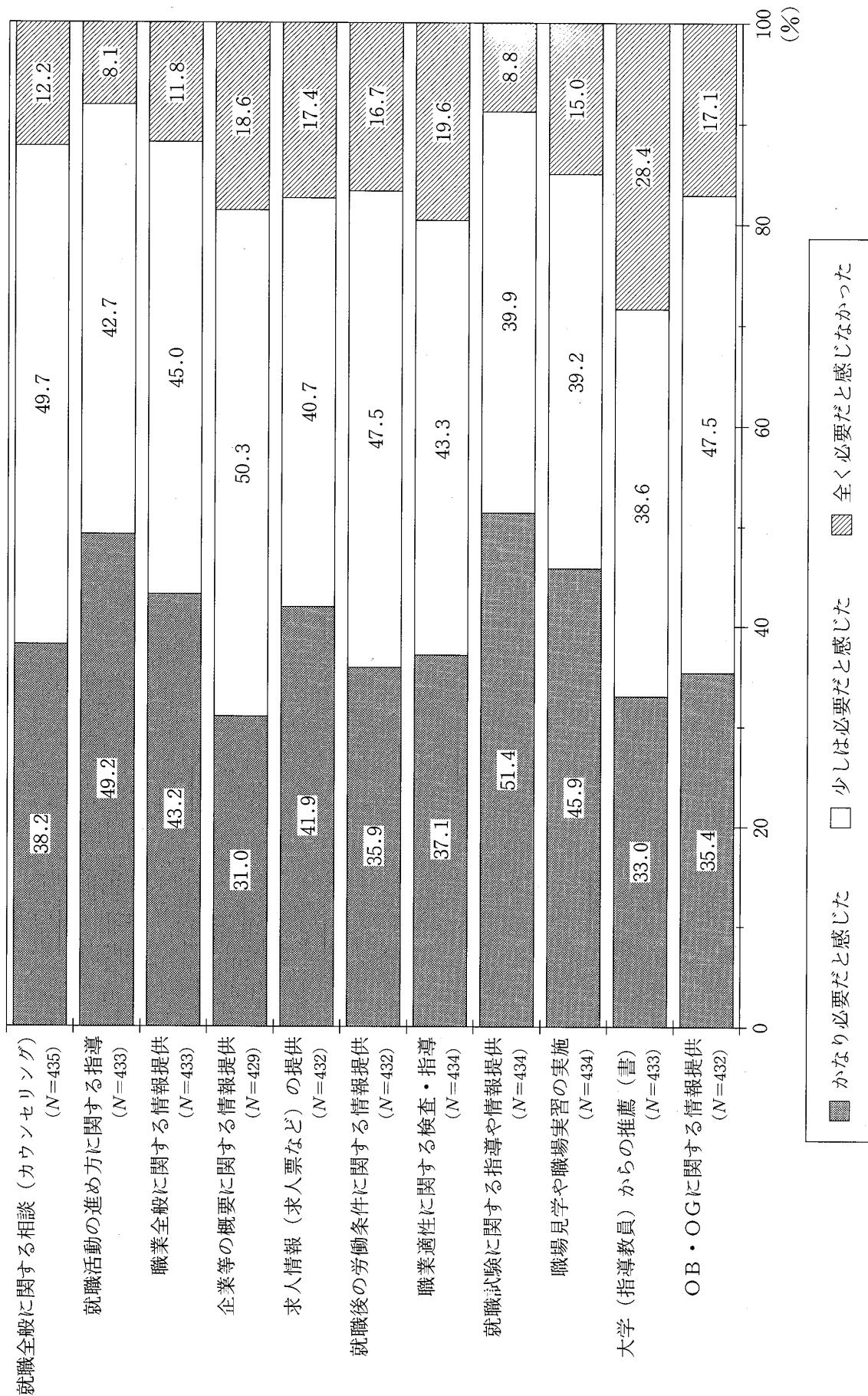


図3 就職活動に関わる大学からの援助 (必要度)

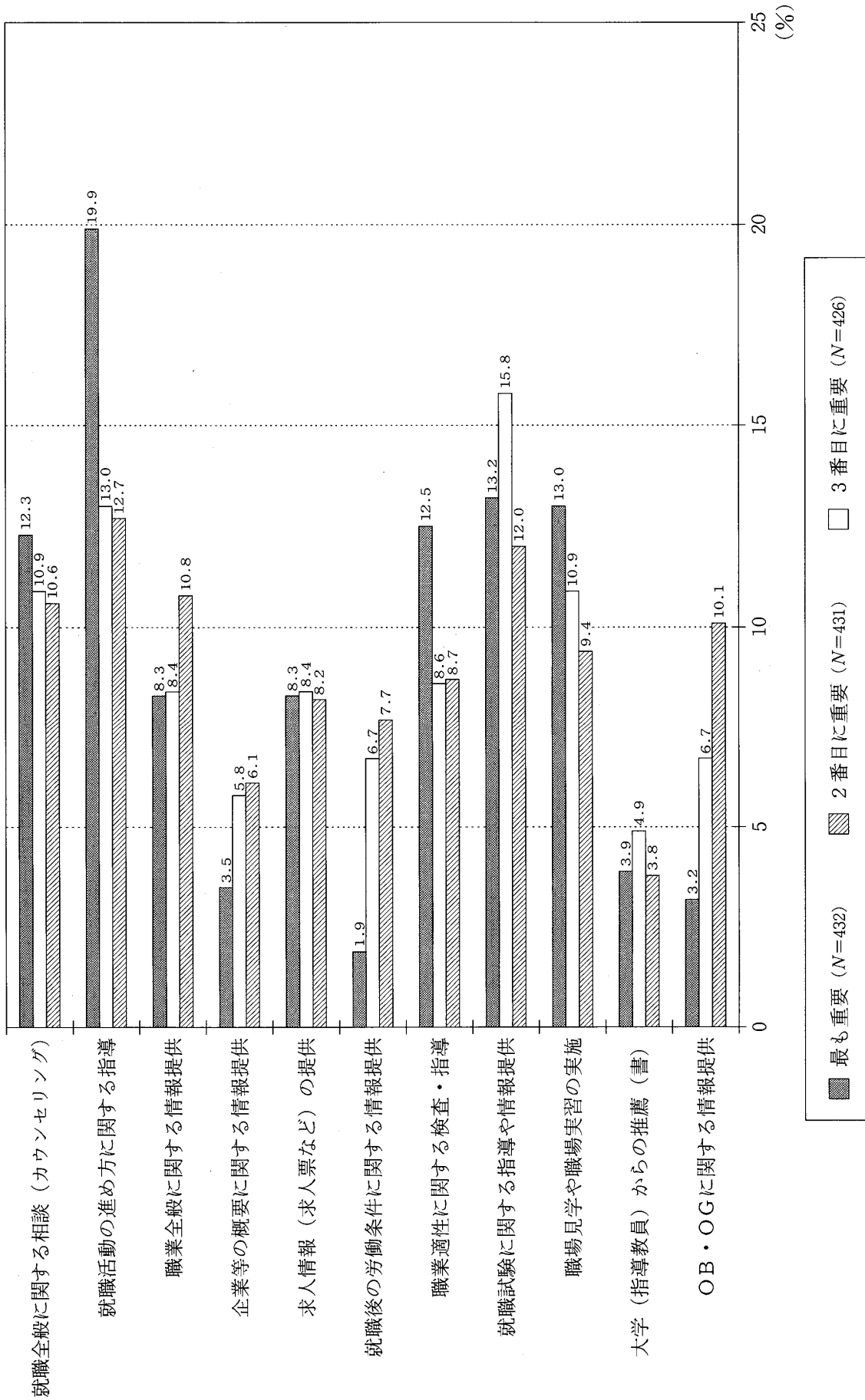


図4 就職活動に関わる大学からの援助 (重要度)

3. 就職活動への取り組み姿勢

(1) 就職活動への傾注度

就職活動全般を振り返って、「自分の持てる力（最大100%とする）の何%の力を就職活動に注いだか」（以下「傾注度」という）を尋ねた。

① 全体の傾向

まず、傾注度の全体平均は、63.3%であり、中央値は70.0%であった。

図5からわかることは、100%が最も多く約16%、次いで80%台と70%台がそれぞれ約15%ずつである。なお、傾注度が0%という学生が約4%もいる。

② 男女間の差

卒業年度ごとに、傾注度について男女差をみるために、t検定を行った。その結果は次のとおり

である。

2001年度： $t(146)=1.969, p=.051$.

2002年度： $t(124)=2.272, p=.025$.

2003年度： $t(145)=2.786, p=.006$.

また、卒業年度別に男女の傾注度を表にまとめたのが、表25である。

以上の結果から、2001年度のみ5%水準では有意ではなかったが、2002年度と2003年度については、5%水準で男女間に有意差が認められた。つまり、表25の平均値(M)を比較するとわかるように、「2002年度卒業生」と「2003年度卒業生」のいずれも就職活動への傾注度は、男性よりも女性の方が有意に高いといえる。

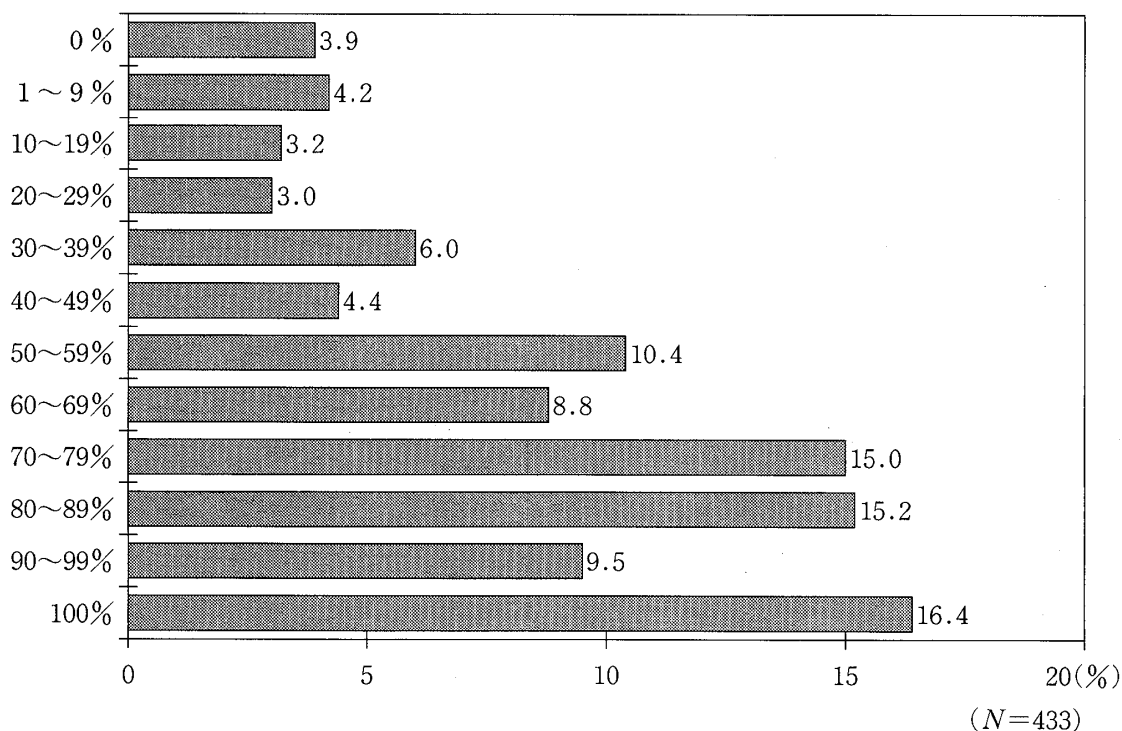


図5 就職活動への傾注度

表25 就職活動への傾注度

	男 性		女 性		全 体	
	N	M(SD)	N	M(SD)	N	M(SD)
2001年度卒業生	34	57.7(34.8)	114	69.5(29.4)	148	66.8(31.0)
2002年度卒業生	36	52.4(32.2)	90	65.4(27.5)	126	61.7(29.4)
2003年度卒業生	30	48.0(32.6)	117	64.7(28.3)	147	61.3(29.9)

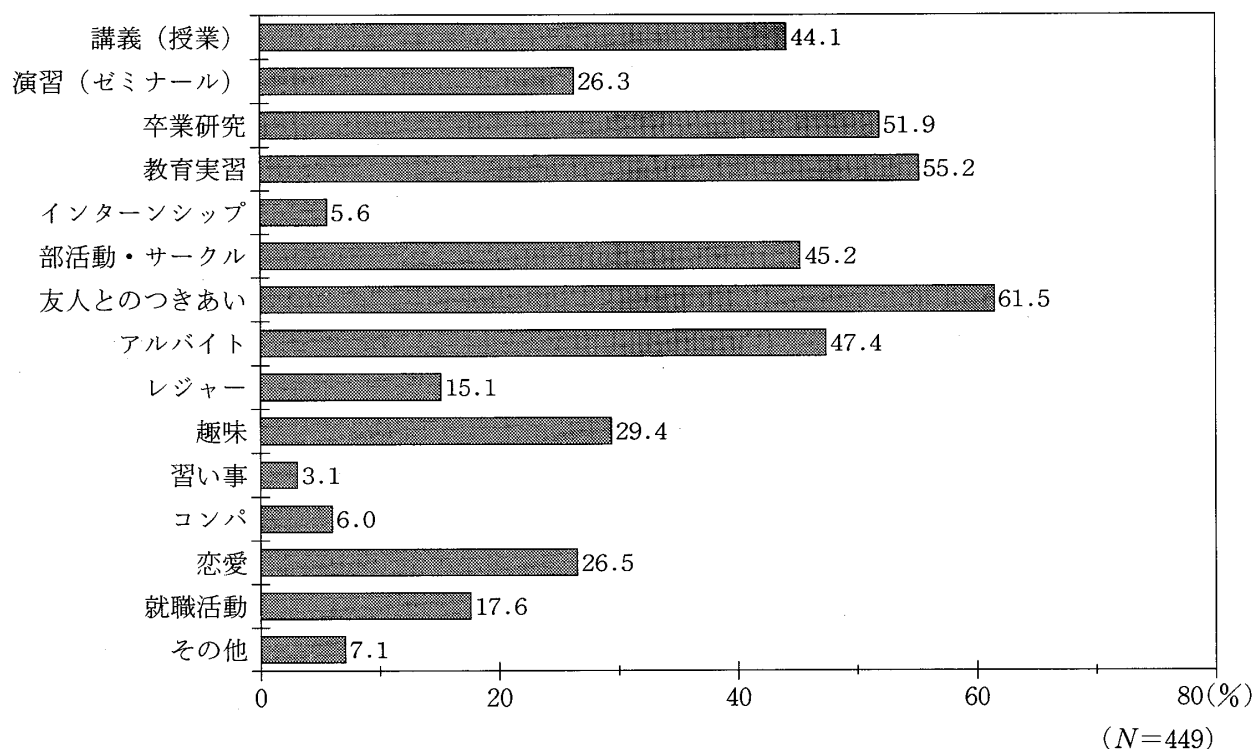


図6 大学生生活で熱心だったこと (複数回答)

(2) 大学生生活で熱心に取り組んだ事柄

図6にあるように、大学生生活で熱心に取り組んだことは、第1位が「友人とのつきあい」、第2位が「教育実習」、第3位は「卒業研究」であり、これらが50%を超えている。ちなみに第4位は「アルバイト」であった。一方、「就職活動」と回答した者は2割にも達せず、これは、「レジャー」とほぼ同率である。

卒業年度別にみたのが表26であるが、「2003年度卒業生」は他の年度よりも、「就職活動」と回答した比率がやや高くなっている。

考 察

(1) 就職活動の現状を踏まえたキャリア教育プログラム

就職に関わる諸活動の開始時期を具体的に知るために、11項目にわたって尋ねた。その結果のうち、たとえば、「企業等での会社説明会やセミナーなどへ出席し始めた時期」のピークを卒業年度別に比較すると、「2001年度卒業生」と「2002年度卒業生」では、3年生の3月であったが、「2003年度卒業生」

では3年生の2月となっており、1ヶ月早まっている。また、「企業等を訪問し始めた時期」を卒業年度別にみると、「2001年度卒業生」では4年生の4月がピークであったのが、「2003年度卒業生」においては、少し早まり3年生の3月にピークを迎えている。さらには3年生の2月にも2割の学生が開始している。

このように、就職活動の開始時期が少しずつ早まっていることを考慮に入れたキャリア教育プログラムの作成が必要であろう。

(2) 就職活動に関わる援助の現状と必要性

「就職活動に関わる援助」として設定した11項目について、「どの程度大学から援助を受けたか」(現状)、また「就職活動中、そのような援助をどの程度必要だと感じたか」(必要性)について、それぞれ3段階で尋ねた結果を前述した。援助を受けた割合(「十分受けた」と「少しは受けた」の合計)が5割を超す項目は、「就職活動の進め方に関する指導」、「職業全般に関する情報提供」、「就職試験に関する指導や情報提供」の3項目だけであった。一方、必要だと感じた割合(「かなり必要だと感じた」

表26 大学生活で熱心だったこと

(複数回答)

		2001年度 卒業生	2002年度 卒業生	2003年度 卒業生	合 計
1. 講義 (授業)	度数	71	56	71	198
	%	44.9	41.5	45.5	44.1
2. 演習 (ゼミナール)	度数	39	42	37	118
	%	24.7	31.1	23.7	26.3
3. 卒業研究	度数	83	82	68	233
	%	52.5	60.7	43.6	51.9
4. 教育実習	度数	85	66	97	248
	%	53.8	48.9	62.2	55.2
5. インターンシップ	度数	8	5	12	25
	%	5.1	3.7	7.7	5.6
6. 部活動・サークル	度数	65	62	76	203
	%	41.1	45.9	48.7	45.2
7. 友人とのつきあい	度数	92	83	101	276
	%	58.2	61.5	64.7	61.5
8. アルバイト	度数	76	61	76	213
	%	48.1	45.2	48.7	47.4
9. レジャー	度数	21	22	25	68
	%	13.3	16.3	16.0	15.1
10. 趣味	度数	46	41	45	132
	%	29.1	30.4	28.8	29.4
11. 習い事	度数	5	2	7	14
	%	3.2	1.5	4.5	3.1
12. コンパ	度数	10	5	12	27
	%	6.3	3.7	7.7	6.0
13. 恋愛	度数	43	36	40	119
	%	27.2	26.7	25.6	26.5
14. 就職活動	度数	24	20	35	79
	%	15.2	14.8	22.4	17.6
15. その他	度数	11	7	14	32
	%	7.0	5.2	9.0	7.1
回 答 者 数		158人	135人	156人	449人

と「少しは必要だと感じた」の合計)は11項目中「大学(指導教員)からの推薦(書)」以外の10項目において、8割を超えている。つまり、ほとんどの学生はこれらの援助について必要性を感じていることになる。

この「現状」と「必要性」のギャップをどのように埋めていくか、つまり就職活動を行う学生のニー

ズに大学・学部がどのように応えていくのかが今後の重要な課題である。引き続き、大学・学部は学生たちのニーズに即応した援助体制をどのように確立していくのかについて、さらなる検討を重ねることが必要であろう。

(3) 就職活動における不安を解消する取り組み

就職活動における不安のうち、卒業年度間で有意差が認められたのは、「労働体験不足」だけであった。つまり、労働体験不足から生じる不安を「とても感じた」比率が、2001年度よりも2002年度や2003年度の方が高く、倍増していた。その比率は、最近の2年度間では5人に1人以上がこの種の不安を「強く」感じていると言える。

「労働体験不足」から生じる不安を解消するためには、やはり直接就労体験を重ねることが必要であろう。今や大学でもかなり取り入れられてきた「インターンシップ」をさらに推進していくことも1つの方法である。すなわち、ある一部の限られた学生だけではなく、できるだけ多くの学生にインターンシップの機会を与えることができる支援体制づくりをしていくことが必要であろう。

(4) 就職活動へのモチベーションを高める手だて

就職活動への取り組み姿勢について、傾注度と熱心事の2つについて分析した。その結果、①自分の持てる力の約6割強程度しか、就職活動に力を注いでいないこと、②約4人に1人は、就職活動に対して持てる力の半分も注いでいないこと、③毎年度、男子学生よりも女子学生の方が就職活動に熱心であること、④大学生活で熱心だったこととして、「就職活動」をあげた者が2割にも達せず、その比率は「レジャー」をあげた者とほぼ同率であること、などが判明した。

以上のことから、学生は就職活動に対して、自分の持っている力を十分に出し切っているとは言えない。したがって、キャリア教育プログラムの中で、学生たちの就職活動へのモチベーションを高めるための方策を十分講じていくことが必要であると考えらる。

(注1) 本研究は、平成15年度新潟大学学長裁量経費・教育研究改革改善プロジェクトによる研究「キャリア意識の形成ならびに就職支援に関する基礎的プロジェクト」(研究代表者:教育人間科学部・近藤フヂエ教授)の一部である。

(注2) 本稿は、近藤ら(2004)の第6章(執筆担当:松井賢二)を基に、再分析し加筆したものである。

文 献

- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002 『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』(調査研究報告書)
- 近藤フヂエ, 山岸雅夫, 五十嵐久人, 石坂妙子, 松井賢二, 高橋桂子, 森下修次 2004 『キャリア意識の形成ならびに就職支援に関する基礎的プロジェクト 研究成果報告書』(平成15年度新潟大学学長裁量経費(教育研究改革・改善プロジェクト)報告書)
- 文部科学省 2004 『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』
- 文部科学省 2004 平成16年度学校基本調査速報
- 新潟大学就職部 2000 大学生の進路意識とキャリア成熟に関する実態調査報告書
- 新潟大学就職部 2001 大学生の進路意識とキャリア成熟に関する実態調査報告書(II)
- 新潟大学就職部 2002 大学生の進路意識とキャリア成熟に関する実態調査報告書(III)
- 仙崎武ら 1998 平成8・9年文部省委託調査研究『職業教育及び進路指導に関する基礎的研究(最終報告)』 職業教育・進路指導研究会(代表:仙崎武)発行
- 高橋桂子, 松井賢二, 佐山光子, 坂野慎哉, 牛山幸彦 2002 新潟大学卒業者の初職選択・職業キャリア形成に関する基礎的研究(平成13年度新潟大学プロジェクト推進経費・研究報告書)